

西南暖地における春播き飼料作物の ニューフェイスのご紹介

1 はじめに

昨年12月は東京で、年明けの1月初めと月末には鹿児島で記録的な積雪がありましたが、今年の冬は例年より気温が低めに推移している気配です。

また昨年は南九州で3個の台風が接近して、一部に倒伏の被害が発生しました。

今年も台風被害が予想されますので品種の選択や作付け体系の見直しなど、具体策を講じて被害を最小限に抑えたいものです。

ここでは西南暖地の飼料作について、新品種を中心に酪農と肉牛繁殖用に分け、利用法をまとめてみました。

2 乳牛向けの飼料作

泌乳牛には消化率や嗜好性が良く、高エネルギーな粗飼料が必要です。

これにはトウモロコシが最も適しています。図1に代表的な作付け例をまとめましたので参考にしてください。

パターン : トウモロコシ二期作

熊本では台風被害が他の地域より軽いため、二期作が盛んに行われています。

二期作目を8月初めまでに播種しないと、実の登熟が確保できないので、一期作は7月中旬頃に収穫できるR M110~115クラスを早播きするのが大事です。

二期作用のスノーデント王夏(おうか)は、台風

に耐え倒伏に強い事と遅播きで発生する南方さび病に強いのが特徴です(写真1)。

パターン : イタリアン・トウモロコシ

最も一般的な体系で、嗜好性が良いイタリアンとトウモロコシをフルに活用した体系です。イタリアンは中生・中晩生の**タチムシャ**、**マンモスB**が再生も期待できます。

トウモロコシが5月播きの場合は台風に遭遇する可能性が高いので、倒伏に強い**スノーデント127S**や**盛夏・王夏**をお勧めいたします。なお糊熟期になればサイレージ調製が出来ますので、風速30m以上の強風が避けられない場合は、早刈り取りした方が賢明です。倒伏すると土が着くことでサイレージ品質と嗜好性が悪化します。

パターン : 混播栽培

台風被害が大きい南九州でよく使われている体系です。トウモロコシを台風前に収穫し、ソルガムの



写真1 スノーデント王夏(さび病と倒伏に強い)
左: 王夏 右: 他社品種

第51巻第2号(通巻600号)

牧草と園芸 / 平成15年(2003)3月号 目次

道東飼料(株)最新鋭飼料工場の完成	表 2
西南暖地における春播き飼料作物の ニューフェイスのご紹介 [細田 尚次]	1
「名人」のチカラ - 平成14年全道枝肉共励会の成績 - [阿部健太郎]	4
土壌線虫に対する対抗植物の効果と利用上の留意点 [川崎 修二]	6
北海道南空知のたまねぎと緑肥による土づくり [宮町 良治]	9
アンケート調査についてのお礼 [編集事務局]	14
北の精鋭(セイエイ)!!(ホクセイ・ホクエイ)	表 3
アクレモの効果	表 4



イタリアンライグラス
ハナミウセの出穂

再生を上手に活用した省力・多収栽培です。

4月播きでソルガムの生育を抑えてトウモロコシの実入りを良くする事と、刈り取り後の再生収量が多く9月以降の台風に耐える倒伏に強いソルガムの品種選びがポイントです。

またソルガムの再生を良くするには、7月の刈高を10cmくらいにするのが良いでしょう。刈高が低いと再生が悪いことが多い様です。

再生したソルゴーは水分が多目なので、高水分材料のサイレージ品質を良くする添加剤：アクレモシリーズ（粉剤・液剤）のご利用をお勧めいたします。

ロール用では「うまかるーる」をご紹介します（写真2）。

特性は葉が多く、生育がゆっくりしているので地際の茎が柔らかく嗜好性が良い事です。8kg播きでスーダン並みの細茎に仕上げ、出穂前の草高で1.7mに刈り取ります。刈高を10cmにして再生を確保しましょう。モアコンで圧砕すると予乾が早まり、ロールの品質が良くなります。

3 肉用繁殖牛向けの飼料作

繁殖牛には乳牛のように乳生産がありませんので、高エネルギー飼料は必要ありません。トウモロコシは茎葉割合が高い品種やソルゴーなどのイネ科が最適な粗飼料となります。

ここでは機械設備の大小にあわせた飼料作体系を



写真2 うまかるーる（葉が多く、茎が柔らかい）

ご紹介しましょう（図2）。

・大型機械体系の場合

酪農とほぼ同様な作業体系が使えますが、先ほど述べたとおりトウモロコシは茎葉割合が多い品種を使い、過肥からくる繁殖障害を防ぐとことが大切です。

パターン：混播栽培

トウモロコシはスノーデント127Sと高糖分ソルゴーの組合せが良いでしょう。

播種は遅くとも4月中旬までに完了しないと7月末の収穫が遅れ、台風に遭うことになります。混播時の除草剤はゴーゴーサン乳剤を300cc/水100リットル/10アールを播種後に散布します。

パターン：ムギ・イタリアン混播き

冬作に重点を置いた体系です。

5月播きのトウモロコシはさび病と倒伏に強いスノーデント盛夏/王夏がお勧めです。盛夏、王夏はイタリアンを2回取りした7月にも安心して播けます。

パターン：イタリアン・ソルゴー体系

最も一般的な体系で、再生が利用できるので多収となります。イタリアン・ソルガム共に、刈り取り時期を出穂前から出穂始めにすると消化性と再生が良くなります。

刈り遅れるにしたがって茎が硬くなり、消化性が落ち再生も悪くなります。

ソルゴーでは消化率をあげた青刈り用のBMRスイートをご紹介します。

特性はリグニン（難消化性）が少なく、消化性が良い事です。

また再生や倒伏、病害耐性は既存のソルゴーと遜色がなく作り易い品種です。

BMR（ビーエムアール）スイートは、葉の中央部と節が茶色になるのが、品種の目印です（写真3、図3：消化性）。

・小型機械体系の場合

冬作のイタリアンを2回刈りして再生を有効に活

パターン	作付のメリット	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	乾物収量
I	トウモロコシ2期作高TDNの飼料生産ができる				スノーデント110・114・115・119			1.6~1.8t		スノーデント 王夏				(t/10a) 2.8~3t
II	トウモロコシ（早播き）とエンバク作付作業が楽で堆肥を冬期に投入できる				スノーデント123・125・127S			1.8~2.0t		エンバク スーパーハヤテ隼・サビツヨシ				2.5~2.7t
III	トウモロコシとイタリアン・エンバクまたはオムギとの混播 夏作で高カロリー飼料、冬作で乾草がとれる			エンバク・スーパーハヤテ隼 またはオムギ・ワセドリ2条混播	スノーデント125・127S・盛夏			1.6~1.8t		イタリアン タチマサリ・タチワセ・タチムシャ				3~3.2t
IV	トウモロコシとソルガムの混播 台風の危険を回避でき、しかも乾物多収			または早立御膳	スノーデント123・125・127S			1.8t		高糖分ソルゴー又はハイグレン				3.3t

図1 酪農経営のための飼料作付け体系例

○ ~ ○：播種期 ⊗ ~ ⊗：収穫期



写真3 BMRスイート (左; ノーマル, 右: BMRスイート)



写真4 なつ乾草 (細茎で, 葉が多い)

用します。夏作は草丈が短いソルゴーや栽培が容易で乾草向きの暖地型牧草を組合せましょう。

これらの品種は青刈りにも利用できます。イタリアンは5月初めの天候が安定した時期に刈れるマンモスBやドライアンがお勧めです(写真4)。

特にドライアンはイタリアンの中では極めて細茎で, 乾き易い特徴があります。

夏作の暖地型牧草では, ローズグラスより発芽・初期生育が早く乾燥し易い, 「なつ乾草」をご紹介します。

写真4のとおり, 葉が多く嗜好性が良い新品种です。イタリアンのような細茎なので乾き易いことが大きな特徴です。

刈り取り時期は出穂前の草高で1.2~1.3mがお勧めです。これ以上の草高になると茎が硬くなり, 嗜好性が落ちてきます。

また栽培の注意点は1回刈りで再生しないことと, 湿

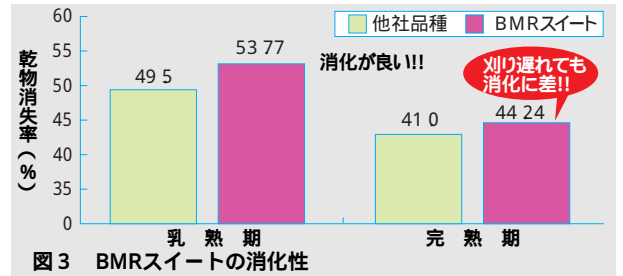


図3 BMRスイートの消化性



写真5 三尺ソルゴー (短稈で, 運びやすい)

害に弱いので排水の良い畑で栽培することです。

小型のソルゴー：三尺ソルゴーは刈り取り・運搬が容易な事から, 青刈り用として利用事例が拡大してきました。

写真5のように葉が多く茎中の糖度を上げた嗜好性の良い品種です。草丈は5月から8月まで, いつ播いても軽トラックに積める1.5m前後です。8月始めまでに刈れば再生も利用できます。

山間地では猪や狸による食害が発生し, トウモロコシや茎が甘いソルゴーに被害が集中しています。対策はソルゴーでは葉が多い「うまかろーる」やリグニン含量が低く繊維の消化性が良い「BMRスイート」をお勧めします。また7~8月播きでは, 太茎で多収な「ビッグシュガーソルゴー」が良いでしょう。

降霜後も立毛貯蔵できますので, 1月まで青刈り利用が可能です。

以上のようにご紹介しました品種が, 皆様の畜産経営にお役に立ちますことを期待して終わりと致します。

パターン	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	乾物収量 (t / 10a)
I				スノーデント123・125	スノーデント114・115	1.8~2.0t	127S	高糖分ソルゴー	1.4~1.5t				トウモロコシとソルガムの混播 (3.3t) 播種量: トウモロコシ2~2.2kg ソルガム2kg トウモロコシ, なつ乾草, イタリアンの組合せ
II				タチワセ又はタチマサリ混播 または早立御膳		0.7t	スノーデント王夏・盛夏	1.7~1.8t	ワセドリ2条とイタリアン				夏作はトウモロコシで, 冬作イタリアンと エンバク混播 (3.2t) 播種量: トウモロコシ2~2.2kg エンバク 3kg, オオムギ4kg イタリアン2~3kg
III				マンモスB・タチムシャ・ドライアン (2回刈り)		1t	0.5t	高糖分ソルゴー又はBMRスイート・三尺ソルゴー	1.0t				ソルガムで2t, イタリアンで1.5t (合計3.5t) 播種量: ソルガム2~3kg イタリアン2~3kg

作付のスケジュール

パターン 1
台風の被害を回避でき, 再生した高糖分ソルゴーは糖分が高く青刈りの嗜好性もよい。畦幅は75cmとする。

パターン 2
青刈り, サイレージいずれにも調製できる。再生したイタリアンで, 乾草づくりができる。トウモロコシの畦幅は75cmとする。

パターン 3
ソルガムは青刈り, 冬作で青刈り又は乾草づくり, 高糖分ソルゴーは倒伏に極めて強く, 嗜好性が高い。

図2 肉用牛繁殖経営のための飼料作付け体系例